

人口

前回の調査より1,887人の増加にすぎないが、一般的の予想では、銅鉱開発ブームに乘じ、他県からの転入が激増している昨今、どうみても6万人ははるかに越すのではないかという予想をもっていた。

しかし、一般的の予想に反し、6万人のカベを破れなかったことに寂びしさを感じますが、確かに都市部では、鉱山開発関係など第2次、3次産業において4~5千人の増加があったものと予測され、

この現実が一般的の予想として6万オーバーという型で現われたものとみております。

反面、農村部に目をむけてみると、県内の市町村がほとんどそうであるように2,3男(女)の県外流出が著しくめだってきた。これは、大館市の場合にもいえることであり、この原因として農村では人口流出を防ぐ特別な要素に欠ける点や、農家の傾向として、少家族主義をとっている点、さらに、分家などによる転居は市街地に集中している点などがあげられます。

こうした農村部の現状からして、市内から流出した人口はおよそ3千人はおるものと推測され、人口が6万人を割った一つの原因是農村部の人口流出に起因するものとみています。

しかし、県内8市の状況をみると、前回より人口の伸びを示したのは、秋田市と本市のみであり、県下の一般的な傾向をしりぞけ、逆に、人口が年々増加しているという本市の事実は高く評価されています。

国勢調査

大館市の人口 59,662人

昨年の10月1日現在で行なわれた国勢調査は、市民各位のご協力により無事終えることができました。

調査の結果は、昭和35年の国勢調査より人口において1,887人、世帯数においては2,173世帯の増加になっております。

世帯数

市内外地区とも軒並に増えている、とくに銅鉱床の開発にちなんで、釧内、長木、真中地区ではそれが著しく現われてきている。

その他の地区をみると、旧市内の1449世帯の増加は銅鉱床開発に関連し第2次、3次産業にたずさわる人たちに

よる転入、さらには、安住の地を都市部に求めようとする近郊農村部の分家者や官公署の定年退職者などが旧市内に集中してきたためとみています。

下川沿地区の141世帯の増加は、おもに旧市内とくつついてしまった片山地区の増加がほとんどで、これも都市部への集中化の傾向としてふえた旧市内の場合と同じ解釈のうえに立っています。

その他の地区での伸びは、最近の傾向としていえる農家の少家族主義による分家による増加がほとんどではないかという解釈をしています。

以上、今回の国勢調査における本市の特徴点をあげましたが、就業状況や年令別、畠数などの統計資料などは追ってお伝えしたいと思います。

国勢調査結果概数

(赤)(○)(羽)(根)の(共)(同)(募)(金)

目標額を突破!!

昭和40年度の共同募金運動は、昨年の10月1日から全国一斉にはじまりましたが、昨年の12月2日、大館市の目標額1,295,000円を25,321円上まわる1,320,321円で募金を完了することができました。

このことは、市民の皆さんの善意にあふれた、美しい奉仕活動のあらわれであり市としても、このご協力に対して厚くお礼を申し上げる次第です。

目標額の実績は下記のとおりでございますが、お礼とあわせてご報告いたします。

記

◎目標額	1,295,000円
◎実績額内訳	
毎戸募金	934,261円
職場募金	2,661円
大口募金	275,500円
街頭募金	104,452円
一般募金	3,447円
合計	1,320,321円

昭和41年度県市民税申告のお願い

県市民税の申告書は1月15日ごろまでに世帯主宛に配付になります。

提出期限は2月いっぱいになっておりますが、できるだけ1月中にご提出ください。

この申告をしませんと、いろいろな控除を受けることはできなく、納税義務者

にとっては非常に不利な課税を受けることになりますので申告書は必ず提出してください。

なお、住所などの異動で申告書が配付されていない方がおりましたら、税務課税第一係にご連絡ください。